

知る・学ぶ・伝えるequality

事業報告書

令和3年度

目的（概要）

男女共同参画の根幹であるequality（平等）の実現を目指し、「多様な個性の尊重」についての様々な話題を連続講座の中で提供する。初めて知ったこと（知る）、関連する問題や背景などについて学んだこと（学ぶ）、一人ひとりが大切にされる社会を作るために毎日の生活の中で自分が出ること（伝える）を参加者に持ち帰って頂くことを目的とする。

実施担当者

大学側
主催： 男女共同参画推進機構、ダイバーシティ推進センター
共催： 社会連携センター、南近畿女性研究者支援ネットワーク
連携先（自治体など）後援： 奈良県（文化・教育・くらし創造部こども・女性局女性活躍推進課）
奈良市（市民部男女共同参画課）

活動内容

本学は、基本理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ—」と定め、平成 17 年に奈良女子大学男女共同参画推進室を設置した。（＊平成 24 年 12 月に男女共同参画推進機構に改編。）そして基本理念と男女共同参画社会の実現に向け、国が定める基本計画等に基づき、教育・研究・運営等のあらゆる場面で環境整備を進めてきた。第2期中期目標・中期計画（平成 22 年 4 月～平成 28 年 3 月）には、学内外における男女共同参画の推進が定められ、この目標・計画達成に向けた取り組みの一環として、平成 22 年度に本事業を開始した。

この事業は、男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」と「人間の平等（equality）」を身近な問題として捉え学ぶことを目的として、男女共同参画を含む人権に関する様々な話題を講座等を通して提供するものである。平成 22 年度は、ビデオ教材を用いて、日本国憲法に「男女平等」が書かれた経緯を知ることから始め、家庭における性別役割分業やアジア、ヨーロッパ、アメリカの女性を取り巻く環境について学んだ。平成 23 年度は、「幸せに生きるためのヒント」と題した 5 講座を開催。平成 24 年度は、「自分を好きになること」（自尊感情の育成）をテーマとした 4 回の講座を実施。平成 25 年度は「心を元気にすること」をテーマに、①寂しさ・悲しみ、②不安・恐れ、③怒りの感情の受け止め方・対処の仕方に関する 3 回連続講座を開催。平成 26 年度は、「あるがままの自分を生きる」ことについての 2 講座を開講。27 年度は社会連携センター単独主催で「五感と対話」をテーマとした 2 回の講座を実施した。平成 28 年度及び平成 29 年度は「性的マイノリティー」、平成 30 年度は「発達障害」、令和元年度は「男性の働き方、女性の働き方」、平成 2 年度は「自己肯定感の回復が人間を成長させる」をテーマに、それぞれ 2 回の講座を開催した。

今年度（令和 3 年度）は「コロナ禍における女性と子どもの困難とその支援」をテーマに 2 回の講座を開催した。

広報活動として、連続講座のチラシを作成し、奈良県内・奈良市内の図書館・公民館、関西圏内の大学及び自治体の男女共同参画推進部門、全国の大学のダイバーシティ研究環境実現イニシアテ

ィブ事業採択機関等に郵送した。更に、本学HPイベント情報、全国ダイバーシティネットワークHP、国立女性教育会館のHP、ハチラシの掲載を依頼した。また、佐保会、本学子育て支援システムサポーターへもチラシをメール配信した。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンラインでの開催を行った。また、講演終了後にオンデマンド配信も行った。今後も多くの方に参加機会を提供するため、複数の方法で受け皿を用意することを続けることがのぞましい。

以下各講座の内容を報告する。

第1回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝えるequality”連続講座 第1回

「ウィズコロナの時代を生きるうえで大切なこと
～コロナ禍の子どもと女性の支援～」

【日時】 2021年11月11日(木) 14:30~16:00

【場所】 オンライン開催

【講師名】 日下紀子氏(ノートルダム清心女子大学准教授)

【参加人数】 161名(オンライン配信51名・

オンデマンド配信110名)

【講座概要】

講演では、コロナ禍によって否応なく生活様式が変化するなかで、母・妻・社会人といった多重の役割を求められる女性が孤独や不安、罪悪感を募らせていること、また、これまで当たり前でできていたことができなくなったことが、子どもたちに過剰な努力や我慢を強いていることなどが最初に述べられ、一方で、プラスの側面として、マスク着用やオンライン授業といった新しい生活様式によって安心感を得る人たちがいることにも触れられた。そして、このような正解がわからない、先行きが見えない不安と上手く付き合いながら、ウィズコロナの時代を生きるために大切なこととして、イギリスの詩人ジョン・キーツの造語、「ネガティブ・ケイパビリティ」が紹介され、答えが出ない状況、対処できない状況を耐え抜き、改善のために努力し探索し続けることのできる資質・能力を養うことの重要性が語られた。

チャット機能と音声による意見交換も活発に行われた。質疑応答の場面においても、日下氏は「孤立させない」「対話する」「ともに考える」といった言葉を繰り返し用いて回答し、氏の述べる「答え合わせのない問題に対して、わからないことを考え続ける」ということと相俟って、子どもと女性の支援のあり方や、そのために必要なものについて考える材料をご提供いただいた。

文部科学省技術人材育成推進事業 ダイバーシティ研究推進拠点イコアティブ(牽引型) 令和3年度 知る・学ぶ・伝えるequality 連続講座 第1回

ウィズコロナの時代を生きるうえで大切なことーコロナ禍の子どもと女性の支援

この2年が過ぎた新型コロナウィルス感染拡大の影響により、これまでとは異なる状況で生活や活動する不安定な状況になっています。「コロナ禍」という言葉も生まれ、心身の不調、経済的困難やDV、虐待、自殺と様々な困難に直面を余りません。コロナ禍での子どもの生活の困難とその克服について、そしてウィズコロナの時代を生きるうえで大切なこととは何かについて考えていきます。

講師: 日下 紀子 氏

ノートルダム清心女子大学 人間生活学部准教授
ノートルダム清心女子大学 国際関係学部 准教授
ノートルダム清心女子大学 国際関係学部 准教授
ノートルダム清心女子大学 国際関係学部 准教授
ノートルダム清心女子大学 国際関係学部 准教授

2021年11月11日(木) 14:30-16:00
オンライン開催 後日オンデマンド配信

【当日: オンライン】 開催日までに、ご登録いただいたメールアドレス宛に、接続方法などをお知らせします。

【後日: オンデマンド配信】 講義終了後、配信準備ができ次第お知らせします。

【HPの申込入力フォーム】
奈良女子大学男女共同参画推進課
国際関係学部 国際関係センター
「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座
https://open.nara-wu.ac.jp/lecture/online/equality/

お申し込みの際、以下の内容を必ずお申し込みください。
①お名前
②メールアドレス
③お電話番号
④ご住所(〒)お電話番号
⑤ご参加方法
オンライン/オンデマンド

【E-mail】 diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp
【FAX】 0742-20-3344
【TEL】 0742-20-3344(月-金 9:00-17:00)

【締切】 11月4日(木)

主催 奈良女子大学 奈良県立国際関係推進課
協賛 奈良女子大学 ダイバーシティ推進センター
共催 奈良女子大学 社会連携センター
後援 奈良女子大学 国際関係学部 国際関係センター
後援 奈良女子大学 国際関係学部 国際関係センター
後援 奈良女子大学 国際関係学部 国際関係センター

国立大学法人 奈良女子大学

【アンケート調査】

回答人数 38人 回答率 24%

Q1 所属 教員・職員 26% 大学院生・大学生 13% 佐保会会員 32% 一般 24%
子育て支援関係者 5%

Q2 受講方法 オンライン形式 28人 オンデマンド形式 10人

アンケートまとめ（自由記述より）

【オンライン参加者】

- オンデマンドで授業をしていたので大変参考になる講座でした。
- 私と家族は大学の授業以外にコロナの影響をほとんど受けていなかったもので、今回のご講演によって社会で起こっていることを知ることができました。そのような状況の中で大切なことを考えることもできました。また、ネガティブ・ケイパビリティという能力のお話もとても興味深く、焦らずに考え続けることが大切だという考えを今後の人生で生かしたいと思いました。
- コロナ化に関連する様々な事象を取り上げながら話されており、様々な状況の人の気持ちを考えられる一歩を踏めたように思います。私は、コロナ禍のオンライン授業などであまり精神的な苦痛を味わったわけではないのですが、つらい思いをしている人に無理にポジティブにさせようとするのではなく、つらい思いをしているということを受け止めて、今できることからやっという風に働きかけたいです。
友人の母親が「夫がテレワークになってずっと家にいるのが嫌だ」と言っていたのですが、その気持ちが今までわかりませんでした。ですが今日のご講演で聞いた様々な事情にあるのかなと思いました。
来年から中学校教員になるので、生徒への言葉のかけ方にも生かせることがあり、ためになりました。ありがとうございました。”
- ご講演、有り難うございました。中でもネガティブケイパビリティについてのお話が心に残りました。子育てから親からの困りごとや悩みに接すると、つい、何かしら答えを探さなくちゃ、と思いがちですが、「ひたすら待つ」その中で「今できることをコツコツする」ことで「心に根を張っていく」というお話に、なるほどと思いました。有り難うございました。
- 興味深かったです。大学生の声を聴いたらさらに良かったです。
- 大変興味深く拝聴させて頂きました。教員としての学生さんへの対応、母としての子どもへの対応を振り返ることができ、今後に役立てていきたいと考えました。
- 最初のコロナ禍における新しい生活様式のお話やコロナ禍での体験のお話は、これまでに多く



きいたことのある話なので、もう少し簡単でよかったと思いました。でも、整理をして話を伺えた点はよかったと思います。「コロナ禍の子どもと女性の支援」のための視点はいずれも同感（私は、サンテグジュペリや帚木蓬生の愛読者）ですが、実際に困っている子どもや女性にどう手を差し伸べるのか、学校教育に望むこと、行政としてどんな形を取り入れていくべきかなど、具体策についての提言がほしかったと思いました。「孤立しない」「協働する・連携する」など、現に孤立している人にどう手を差し伸べるのかの具体策が重要ですし、協働したり連携したりするためには誰かがどこかに働きかけなければならないかと思います。

- 本日は、重要なお指摘をいただきありがとうございました。コロナ下での問題点の丁寧な説明もさることながら、できれば主題のネガティブ・ケイパビリティを重視した支援の実例やそこでの問題点などについて、もっとお聞きしたかったと思います。
- 子育て支援の仕事をしています。
日下先生の講演は、わかりやすく大変参考になりました。仕事に向けての姿勢だけでなく、家族や身近な人との関係においても大切な姿勢だと思いました。
ありがとうございました。”
- コロナ禍の女性について関心があり、参加させていただきました。” コロナ禍における新しい生活様式の中でポジティブの面とネガティブな面があるけれど、家庭内という密室空間で起きるネガティブな面は、誰かが声を上げないと誰にも知られないことになる”ということを改めて認識しました。誰かが声を上げないと誰にも知られないことの一つとして、「生理の貧困」が思い浮かびました。このような講座の機会や、様々な媒体を通して、現状について広く知ってもらうことが大切だと感じました。
- 以前、男女共同参画推進を担当したことを契機として、担当を離れた今でもダイバーシティに関心を持っています。「反対」の旗を振る人は少なくなってきましたが、積極的に賛成の行動をとってくれる人も増えていないと感じています。地道にシンパを増やし続けることが重要だと思いますので、本日のような講演会の継続を期待しています。
- 大変勉強になりました。副題が「コロナ禍の子どもと女性の支援」でしたので、女性と子供に特有の部分にフォーカスしたお話も詳しくお伺いしたかったです。
- コロナ禍の現在の問題点をそうなのだな と、改めて確認できしっくりきました(曖昧な喪失 etc.)その上で支援として帚木蓬生さんのネガティブ・ケイパビリティの紹介と大事さに及言されこれまで精神的な苦難を背負った一部の人たちだけでなく、広く今の世の中では誰にでも当てはまるものとなったのだと思い入った次第です。日下紀子先生ありがとうございました。
- 活発に質疑応答がなされ、講演者のお話を掘り下げられていてよかった。現場への実践応用の方策がこれから楽しみに思えました。
- コロナ禍（後）の学生への対応は本当に大きな課題ですが、とても示唆的な講演で参考になりました。
- コロナ禍の状況下で negative capability の引用がよく理解できませんでした。
- 今回の講座では、人間力としての能力の中で、ネガティブ・ケイパビリティという新たな能力

に出会い、視野が広がった。答えを急ぐのではなく、保留して待ちながら長期的に考え抜く能力は、人生の中で答えがないからと八方塞がりにならず、暗中模索する勇気を与えてくれると学んだ。そうした能力があると知るか否かでは、曖昧な状況に対する個人の反応が変わる可能性があり、概念を知ることの重要性を感じる。つまり、知らなければ不確かな状況にただ受け身になって憂うつになる反応になり、知っていれば人間力を試される一つの契機だと思い主体的に改善しようと行動する強さを生むのではないだろうか。

- ネガティブ・ケイパビリティという言葉（概念）を初めて知りました。
- コロナ禍の課題をいち早く取りあげた興味深い講座でした。
- 前例や経験の範囲を超えたコロナ禍を、子供と女性を取巻く状況を興味深く聴き、考える機会となった。直接生命に関わることにのみ振り回される日々を隠れて、問題が山積ですね。
- 興味深く聞かせて頂きました。ありがとうございました。
- 分かりやすく、日常的な導入から始まり、共感する中で、コロナ禍での体験—曖昧な喪失体験、コロナ禍での体験—対象の不在、オンラインの限界を指摘されつつ「コロナ禍を生きるうえで大切なこと ネガティブ・ケイパビリティ」の形成へとお話が続き、大いに納得し、共感を覚えました。ネガティブ・ケイパビリティの力、大切さをお教えいただき、はからずも私自身の現在直面する仕事上パビリティの力、大切さをお教えいただき、はからずも私自身の現在直面する仕事上の問題と状況に大いなる示唆とお力添えをいただいた思いです。ありがとうございました。
- コロナにより生活スタイルが、かつてないスピードで変化しています。その中で、取り残されそうになる心の不安について、どう向き合うかを語られることなくメディアは不安を拡散させているように感じていました。不安を解決する為に、積極的に関われない人にどう向き合うか、ヒントをいただく機会になりました。本当にありがとうございます。
- 「曖昧な喪失体験」やオンライン利用による「心と体の分断」についての指摘は、これまでに認識・自覚はあったが改めて考え直す良い機会になった。ネガティブ・ケイパビリティは先を見通せない現在の生活を乗り切る為に非常に必要で重要な能力だと思うし、コロナ禍に関わらず教育現場でももっと取り込むべきものと確信する。
- コロナ禍のこの時代に合ったよい講演をありがとうございました。ネガティブ・ケイパビリティという言葉と概念をこの日はじめて知りました。今まで、わからないことにも無理にこたえようとしてお互いに苦しんでしまう場面が多々あったように思いますが、相手の心の声をしっかり聴き、待つこと、いっしょに考え続けることが大切なのだと教えていただきました。これからの生活に役立てることができればと思いました。
- コロナ時代のもろもろの課題が気になっていましたので、興味あるテーマでした。子どもに培うことができる力は生き抜くために必要な力は何だろうと考えていますので学ばせてもらうこと多かったです。女性の自殺のニュースも気になっていました。幼少期の力がうまく継続或は良き方向に進化して大人になった時に発揮できるようになったらと思います。まだこのような講座に慣れませんし途中退室もありましたのでこの程度の感想ですみません。ありがとうございました。

いました。

- 流されるままに流れられるのも能力であり名称もあるというのを今回初めて知りました。

【オンデマンド参加者】

- 本当に想像もしなかったコロナ禍がもう、2年も続き、今までの生活様式を180度変えなくてはならなくなり、皆が色々模索しながら生活していったと思います。私のような年齢の者は、まだしも、若い人は行動制限に耐えるのは、本当に辛いでしょう。うちも昨年大学生になった孫がいますが、入学式だけが人数制限しながら、行われ、後はすべて、インターネットだったようです、大学での友だちも作れず、一年間は本当に課題の提出のみで終わったらしく、孫は親や兄妹と生活しているので、大丈夫でしたが、一人暮らししている、特に地方から出て来てる友だちは、県跨ぎ禁止で、実家にも帰れず大変だったそうです。昨年未だに、産まれた孫もいるのですが、嫁が、普通なら使える施設が使えず、他のママとの交流も出来なかったけど、定期的に保健所から、担当の方が来て下さって、色々話を聞いて下さったので、良かったと言っていました。本当に、このような支援は常に、必要だと実感しました、特に出産後は精神的にも追い詰められる事が多いでしょう、昔みたいに、隣近所で預け合える環境もないので、回りに居るものが常に気を配って、子育てを支援して行く必要があると思いました。
- 大変勉強になりました。
- ネガティブ・ケイパビリティという言葉が初めて聞きました。生きていくために、また大切な人をサポートしていくために必要な能力だと思いました。この言葉を心に刻んで人と関わっていきたいと思います。ありがとうございました。
- 子育て中の母親の相談を多く受ける仕事をしています。コロナの影響でDVの相談が増えたり、親もこの状況下で子どもにゲームを禁止することが難しいことから、オンラインゲームに夢中になる子どもが増加しているように感じています。こうした影響が今後さらに深刻化し、大きな問題となっていくのではないかと危惧しています。今日は家庭における影響を教えてください、問題の背景要因について思いを巡らすことができました。また、こうした状況を乗り越えていくヒントとして、ネガティブケイパビリティという概念を提示していただき、その言葉を念頭におきつつ小さな希望を持って支援に携わっていくことができそうです。一旦立ち止まって整理する機会をいただきました。貴重なご講和をありがとうございました。
- ネガティブ・ケイパビリティの話が興味深かったです。概念の理解はできても、それを実際に困っている人に対処できるようにまで持っていくのは難しそうだと感じました。
- わからないことをわかったことにしない、わからないこととして受け止めて考え続けていくというお話が心に刺さりました。
- オンデマンドでありましたが、日下先生の大変優しいお声にも魅了され、先生のお話を素直に聞くことができ、体の中の入ってきたように感じます。今日のお話をこれからの生活につなげていきたいと思います。
- 大変勉強になりました。
コロナ禍で、それぞれの立場の方が置かれている状況を具体的に知ることができました。

また、わからないことを、わからないままに抱え、持ちこたえ、探索し続ける「ネガティブ・ケイパビリティ」ということばを初めて聞き、先の見えないこの状況でも、自分にできることをこつこつ行い、花が咲くまで根を張ろう、という前向きな気持ちになれました。”

- ネガティブ ケイパビリティの考え方を、お教えいただき、何か安堵しました。スピーディーに解決するのがよしとされがちな昨今、確かにそれも重要でしょうが、コロナ禍という体験したことない中で、正解のない中で、時間をかけて、自分と向き合うのは、心を保つ上で、重要だと思いました。ありがとうございました。
- コロナは弱者の生活を直撃しました。特に女性は家事育児介護は女性の仕事だという固定概念がまだまだ強く、その上仕事を持っておられることも当たり前になっています。追い詰められた女性のニュースはとてつらいです。その中でもがんばるのが当たり前という風潮の中で、ネガティブ・ケイパビリティということを教えていただきました。これからは人の話を聞くときも、自分の生活の中でもポジティブだけがすべてではないということを考えていきたいと思えます。どんな状況の中でも考え続けられ、耐える能力、この能力という言葉にそれはあきらめとは別なのだと深く感じました。

第2回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝える equality” 連続講座 第2回

「改めて女性活躍を考える

～若草プロジェクトの活動から見えるもの～

【日時】 2022年1月14日(金) 14:00～15:30

【場所】 オンライン開催

【講師名】 村木厚子氏(元厚生労働事務次官、

「若草プロジェクト」代表呼びかけ人)

【参加人数】 261名(オンライン配信108名・

オンデマンド配信153)

【講座概要】

講演の前半では、公務員として働いていた37年半の内約10年に渡り取り組んだ“女性”の問題についてお話いただいた。国が「女性活躍」の施策を社会全体の変化と対応して打ち出してきたことを、多くのデータを示しながら解説して下さった。これまでに様々な施策が行われたにも関わらず、日本のジェンダーギャップ指数がじりじりと下がり続けているのは、“他国に比べ改革・改善のスピードが遅い”からであり、その理由を“取り組むべき施策が腑に落ちていないから”ではないかと指摘された。

『社会に求められるのは、平成の時代は「痛みを伴う改革」、令和の時代は「前向きの改革」』

文科省学術振興事業「若草プロジェクト」研究推進事業「equality」(令和3年度) 令和3年度「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座 第2回

改めて女性活躍を考える
～若草プロジェクトの活動から見えるもの～

本講座は日本における女性の活躍を、SDGsの目標5「ジェンダー平等」に照らし合わせて、自らの経験をもとに解説していきます。日本社会の現状を踏まえて、改めて女性の活躍のあり方を考え、自らの経験をもとに解説していきます。また、若草プロジェクトの活動から見えるものについても紹介します。

講師：村木 厚子 氏

2022年1月14日(金) 14:00-15:30

オンライン開催 後日オンデマンド配信

参加費無料
要申込

【注】オンラインは同日配信で、ご登録のメールアドレスに配信のご案内をいたします。

【HPの申込みフォーム】
若草プロジェクト 代表呼びかけ人
村木厚子氏によるequality講座申込

申込方法
【HP】<https://www.nyu.ac.jp/center/equality/>
【Eメール】shirayuki@nyu.ac.jp
【TEL】0742-20-5344

【講 義】1月14日(金)

国立大学法人 奈良女子大学

という言葉や、「子育て中の女性であっても働きやすい環境への取り組みを行った企業は一定期間後に生産性の大きな向上が見られる」データの提示などは、これからの社会に希望を持てる変化が起きつつあると感じさせてもらえるものであった。村木氏がこれまで一貫して、女性を利用するだけでなく協働・共同する意識をどうしたら育てられるか、という意識を強く持って働いてこられたことが強く感じられた。

後半では、現在取り組んでおられる「若草プロジェクト」について、ご紹介いただいた。プロジェクトは「誰一人取り残さない」というSDGsの目標に合致するものなのだが、活動を立ち上げた頃の故 瀬戸内寂聴氏や大谷恭子氏らとのやりとりは、世界の大きな流れよりも「弱い立場に置かれている女の子達を助けてい」という、肉親に持つような人の心の温かさをより強く感じさせるものであった。

いろんな立場で問題を抱える人達にあらゆるアプローチをしようとして取り組んでおられ、そこに共通するのは「相談しにいらっしゃい」という待ちの姿勢ではなく「わたしたちはあなたの味方」だと話しかけ寄り添う姿勢である。悩みや問題を「人に相談して良い」のだと分からない人は多く、その人達を助けるにはどうアプローチするべきか、村木氏の話から多くの気づきを得た。

社会を鎖に例えれば「鎖の強さは最も弱い輪の強さで決まる」のであり、最も弱い輪が強くなると鎖全体の強さが増す＝弱い立場に置かれている人の環境を良くすると社会全体が良くなるのだ、という話もあった。経済の視点で議論を交わすG20会議で

「誰一人取り残さない」ことが必要だと認識されつつあるが、それはなぜかを説明するために用いられた話である。全ての人々が活躍し幸せになることは、チャリティではなく社会が成長するためなのだとの明確なスタンスを持った説明であり、村木氏らの活動が広く社会に必要とされる重要なものだと深く頷く御講演であった。



【アンケート調査】

回答人数 101人 回答率 39%

Q1 所属 教員・職員 34% 大学院生・大学生 12% 佐保会会員 15% 一般 38%
高校生以下 1%

Q2 受講方法 オンライン形式 61人 オンデマンド形式 40人

アンケートまとめ（自由記述より）

【オンライン参加者】

- とても素晴らしいご講演、そして事前資料ありがとうございました。
- 村木さんのお話を直接伺えて良かったです。特に助け合いの活動をされている3団体のご紹介がとても良かったです。
- 大変わかりやすく、また、腑に落ちる話がたくさんあり、貴重な機会でした。
立場上、女性活躍についての講演をすることもあり、参考になったとともに、自分の考える方向性と合っていたと思います。
ありがとうございました。”
- 働き方改革が行われるようになった経緯など知ることができ、自分がこれから社会に出てできることは何かについて考えるきっかけになりました。女性活躍は女性のためのものではなく社会全体のためであるということが心に残っています。本日は大変貴重なお話をありがとうございました。
- 大変学びになりました。私が今具体的にできることは、学生からの話にしっかり耳を傾けることだと思います。何も話さない学生が多くなっているように思います。
対面で人と繋がるのがとても大事だと感じます。”
- 女性として社会の負の部分の担ってきている気がしていましたが、村木先生のアグレッシブなご講演でとても励まされました。自分の研究の中でも、本日のご講演のスピリットを活かして研究していきたいです。ありがとうございました。
- 村木先生の豊富なご経験と知識に裏付けられた貴重なお話をありがとうございました。いい大人になりながらも、自分に何ができるのかいまだにわからず、また、大したことはできないと思っているのですが、そんな中でも目の前のことをコツコツと、与えられた環境の中でベストを尽くし、チャンスがあればつかめるようになりたいと思います。
- 日本と世界の実状と、村木先生が取り組まれているプロジェクトについて簡潔に知ることができました。分かりやすい資料と説明で面白かったです。
- 村木氏が提供くださったスライドのデータが素晴らしく、特に白書・審議会のデータベースなど今後授業でも活用できそうで、大変勉強になりました。また意見交換では関連書籍を紹介いただき、興味をもったので、さっそく注文いたしました。
- 本当に素晴らしい内容でした。うちの大学は女子大であるにも関わらず、経営陣はマッチョな男性が多く、早く女性学長、理事長などが誕生してほしいと願っているところです。女性が活躍するだけでなく、誰一人取り残さない、あらゆるマイノリティや弱者を見捨てない日本、世界であるために、本当に日本は変わらなくてはいけない。企業も国も、女性のトップの企業の方が収益率が高い、満足度も高い、新しい視点を持ち込めるなど、現実にも目を向けて、より賢い選択をすべき時です。若くて、貧困に苦しむ女性たち、シングルマザーたちに夢と希望を与えて、自立した仕事生活を与えられるような社会を作りたいと思います。また、関西圏の大学で、男女共同参画のプロジェクトやチーム、勉強会などがありましたら参加したいと思

いますので、よろしくお願いします。ネットワークを作りたいと思っています。

- すごく勉強になりました。村木さんのお話を聞いて、勇気が出ました。
- ひじょうに勉強になることが多かったです。女性としていろいろ考えさせられました。男性たちにぜひ聞いてほしいセミナーでもありました。
- 第1回、第2回の講座に参加させていただきました。今回も、理念だけを述べるのではなく、ご自身の経験や活動をもとにした実のあるお話、若い人たちの活動の様子や声を聞くことができてよかったです。ヒントになることも多かったので、所属団体での活動に生かしていきたいと思います。
- 村木先生の丁寧なお話、大変勉強になりました。
- すごく感動しました。お話しされる中で村木先生の優しさがあふれ出ていて、またお話を聴きたいと思いました。若草プロジェクトについて興味がありました。
- 村木先生の優しいお人柄が感じられる講演であった。コロナ禍でわかったこととして、やればできるのに、今までは「やらない言い訳」が多かっただけという言葉はその通りだと思った。このような例は他にも多いと思う。議員の数を増やすにはという質問に対して、アフーマティブアクションが最も手っ取り早いとのことに加えて、若い人が政治に触れる機会を増やし、政治に関われる土壌を肥やすことが必要と言われたことはその通りだと思った。
- 女性の置かれている状況がデータと共によくわかりました ありがとうございます
- 尊敬する村木厚子さんのご講演を聴くことができ、良かったです。
- 若草プロジェクトの話を興味深く伺いました
- 素晴らしい講演でした、村木先生のお話が直接お伺いすることができる感動しました。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。コロナ禍前はなかなか遠方で開催されるセミナーへの参加が難しかったのですが、こうしてオンライン形式にて参加できることは、大変有難いです。
- とても勉強になりました。村木さんのお話はとても説得力があります。
- 穏やかで勉強になった
- 村木先生のお人柄が素晴らしいと思った。また様々なデータと事例を紹介して下さり、大変勉強になった。男性も女性協力する必要があることを改めて認識できた。ありがとうございました。
- 大変良かったと思います。中央省庁におられたご経験、現在の若草プロジェクトの活動から常にお考えをもって世の中に接しておられるので、説得力がありました。お話もとても聞きやすかったです。
- 講師の村木さんの上品な喋り方がとても印象に残りました。質疑応答時の回答なども含め、何事にも心から前向きな方なのだなあというのも印象的です。女性活躍のための具体的な方策は何か、という質問に対する政治家の affirmative action の話や、垂直的ネットワーク・チームづくりの効果などは、まさに現場をよく知る方の地に足のついた受け答えのように感じました。いろいろなデータや具体例を交えたお話は、率直に、実務を担ってきた方だからこそその説得力

があり、印象に残るものが多かったと思います。

- 奈良女らしいテーマだったと思います。これからの女性の生き方、育て方などの視点を学べる講演でした。
- 村木先生の優しい声と分かりやすくお話下さって参加させて貰って良かったです。男性だけでなく女性が入ると本音が直ぐにでる！これには頷きました。男性のかしこまってたら喋るのはうんざりします。女性はテキパキ喋ります。(人にもよりますが)
- 状況が良くなっていることと悪いことは同時に起こりえると知ることができました。他国が日本より状況が良くなるスピードが速いことで日本のジェンダーギャップの順位が下がっているという現状に納得しました。JK ビジネスの勧誘のお兄さんが行政より手厚いという事実にはショックを受けましたがその通りだと思いました。行政で街に出掛けていき困っていきそうな子に声をかける活動を行うのは勤務時間の問題等により難しいとは思いますが、現状を放置すると困っている女性たちが JK ビジネスに巻き込まれてしまうのでやはり行政が行うべきではないかと思いました。
- ご経験を生かされて若い女性のための支援をされている事がとても興味深かったです。
- 女性の活躍が社会に資するということを啓蒙していただきました。説得力あるお話でした。また、チェーンの譬え話は印象的でした。私もできる範囲でボランティア活動が続けられればと力づけられました。有難うございました。
- 「村木厚子氏の講演」とのチラシを見て、受講申し込みをしました。講座の主催者(奈女大)を確認すれば当然の内容と推測できたところですが、私の関心は例の事件でひどい目にあった村木氏にあります。予めスライド原稿を配信頂いたので、いよいよ内容は予測出来たのですが、講演の中に、あるいは質疑の中に例の事件に言及があるかと最後まで拝聴しました。講演・質疑を拝聴する過程での私の関心は、女性活躍のロールモデルの村木氏が、大阪地検の毒牙に掛ったのは偶然か、あるいは司法(国家権力)の何らかの意図があったのか? との視点です。小生は奈女大(文)附属の中・高で、奈女大出身の女性教員(女性教員は全て?奈女大出身)の教えを受けた身ですので、そのような視点を期待するのは見当違いと判っていたはずなのに、、、大変失礼しました。
- 村木先生のデータに基づく講演は分かりやすく、活動に基づいた内容には説得力がありました。穏やかな口調が共鳴の後押しとなりました。「一人一人の能力を大切に使う組織でありたい」また、「やらない言い訳をしない、やればできる。」はコロナ禍の中での活動に悩む団体にとって、力強い励ましとなりました。
- 村木厚子さんの柔らかく細部に目の行き届くお話に、あっという間の1時間でした。特に国際比較データからのお話は、冷静な分析力で、私たちが諦めている物事には本来、解決の仕方があるはずだと教えられました。葉書一枚、パブコメ一件の重みを教えていただき、昨今の世情を鑑みて、勇気づけられる想いがいたしました。
18歳が成人になるということは、成人するまでの教育期間が相対的に短くなるという側面もあり、社会に出てからの人間の成熟ということをおもいますと、意思決定に至るまでの吟味力の

育成に危惧を感じるこの頃でもあります。教育の問題かもしれませんが、大学生を観ていても、個人差もあるでしょうが、1・2回生と3・4回生の成長には質的な飛躍があるようにも感じています。一方で、若い人の本能的な発信力に期待できる面もあるようにも思います。連想が飛んでしましますが、貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました。質問された先生方や多くのご視聴の皆様のご存在も、ネットワーク作りのご助言と相まって、心強く存じました。

また企画いただきました奈良女子大学の先生がたにも心よりお礼申し上げます。”

- 豊富な内容で勉強になりました。
 - 大変良い内容で学びになりました。
- 今の学生はあまり色々なことを話したがるらないですが、聴くことに先ず徹してみようと思います。”
- 有意義なご講演を容易な方法で拝聴でき喜んでおります。有り難うございました。
 - 若草プロジェクトの活動について知ることができたうえ、自分の抱えている問題についてもヒントをいただけ、貴重な情報を得られました。
 - とてもわかりやすかった。統計を用い、説得力があった。
 - 今日の女性が置かれている状況がデータと共に教えて頂きありがとうございました
 - 村木さんのお話は柔らかい語り口で、第一線で活躍、実践してこられただけに説得力もありいろいろと考えさせられました。世界的にも低い女性の地位向上を何とかできないものかと思いました。本の紹介もありがたかったです。
 - 就活中に面接で「お茶汲みちゃんとやってくれる？」とか「女性は妊娠出産を機に辞める人が多いけど続けられる？」といったことを言われたと友人から聞きました。差別をしているつもりまではなくても、未だ一人一人の根本的な考え方は変わっておらず、理想と現実乖離しているのだと改めて感じました。優秀な方のロールモデルに限らず、誰でもなれそうな女性ロールモデルが増えることもまた、各社で必要なのではないかと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
 - 実践的な内容で、理解しやすい説明をありがとうございました。
 - 村木厚子さんのお話を初めて伺いましたが、より良い社会を作るために女性が活躍する突破口を色々で紹介して頂き（例えば、代表者は一人ではなく、男女一人ずつ等）とても有意義でした。これらの意識は、若い人達だけでなく、私共のような高齢者も持ち、日本全体からSDGsに向かって変革すべきと思いました。
 - 時代とともに社会は変化しているんだなと思いました。
 - 非常に興味深いお話で、多くのことを学ばせていただきました。
 - とても勉強になりました。
 - 今回始めて参加させていただきました。テーマ、講師の選択などとてもよい企画でした。
 - ていねいで柔らかいお話ぶりで現在の難しい社会状況や問題点を解説いただき本当によかったです。ありがとうございます。

- 70 歳代という年代から言えば男女の家庭での役割についての平均的な概念には隔世の感があります。が、現実にはそれほど上手くいっていないことも娘（40代）の生活からうかがい知ることができます。女性が自己実現できる時代が早く来ることを願っています。
- 一人で考えていて偏った知識になりがちですが、講座に参加して足りていなかったことや新しい活動を知ることが出来ました。
- 内容が期待通りでした。オンラインの利点を生かした、講師選択や参加者の自由度が有難い。今後も続けて受講したい。
- 講師の選定がとてもよかった。
- これまでの認識のなかった異なる視点から女性活躍を考える機会になりました。ありがとうございます。
- 村木講師の話を書くのは二回目でした。恥ずかしいことに、政策は国家の事情を反映していることを、前回知りました。今回、鎖の強度が一番弱い輪で決まるというたとえ話は新鮮でした。
- 女性と仕事に関するどのようなデータがあり、それをどう読み解けば良いかを丁寧に説明していただきました。また、現在ご自身が取り組んでおられるプロジェクトに関して、世界の動きと関連付け、多くの情報を示していただけたので、私達が次に取り組むべきことへの具体的な足がかりに出来ると思いました。
- 大変分かりやすく、触発される内容でした。多くの優秀な人材がジェンダー平等に取り組んでおられる事を知り、たのもしく嬉しい限りです。
- 今回は「女性活躍」についてでしたが、男性の育休問題など「男性の～」といった話題にも、女性の自分には関係ないと思わず、社会全体の問題として理解を深めていきたいと思いました。
- 貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。少し幅広すぎる気がしましたので次回はよりテーマを絞り、深い話を聞かせていただきたいです。

【オンデマンド参加者】

- 現在の女性の社会進出までのいきさつ、その後のジェンダーの問題は大変勉強になりました。私も結婚出産後に高校で非常勤講師をしておりましたが、女性の理系の講師、まして女子大出身なので少し偏見を持たれていたように思います。
- 若草プロジェクトを支援したいと思いました。また若い女性の支援のためには窓口で待っているだけでは JK ビジネスのお兄さんに負けるということがしみじみよく分かり、夜回り先生のような支援がもっと必要なのだと思いました。
- 素晴らしい講演を拝聴させていただきありがとうございます。
ダイバーシティの持つ強さがデータでも裏づけられていることに、とても勇気づけられました。社会の一員としてできることを探しながら、生活していきます。
- 私たちの年代(70 代)は、社会は男性中心で、大黒柱は男性、女性はそれを支えて家事育児が、当たり前でした。それを普通と思わされていた社会を変えて行く先駆者が出て来られても、多勢の女性は他人事と思わされていたと思えます。

私自身も家事育児の合間に、仕事に出ても、家事育児と両立させる為には、パートしか選ぶ事が出来ず、夫も家事育児は女がするものと思っていたので、ほんとしんどかったです。子ども達が成人して、自分の時間が出来て、資格を取りたい、勉強したいと思い、色々な講座、教室を受け、初めて自分と云う 1 人の人間、女性として確立した感じです。色々な場面で色々な女性と、お会いする機会が増えましたが、まだまだ女性の意見は通らない日本の社会です。それでも、私の息子たちは、それぞれ家庭を持ちましたが、すべてにおいて、夫婦平等です。収入の格差はあるかもしれませんが、家事育児はお互いに負担が掛からないように、協力してやっている姿を見て、日本も、少しずつ男女差別は無くなって行くであろうと期待しています。まだまだ日本は、女性自身がなかなか自分で声を上げられないですが、それに気付いて助けてあげられる、こういうプロジェクトの必要性、ほんとに感じます。”

- 最初から引き込まれるお話でした。女性活躍がどんな背景で成立してきたのかとてもよく分かり勉強になりました。また、見えにくいところの弱者の視点が大事なことなど最後まで興味深くお話を聞くことが出来ました。本当に一人ひとりの能力を大切に使える社会、一人ひとりが大切にされる社会が望まれます。
- 大変中身の濃い勉強をさせて頂きました。また、村木先生の和やかな笑顔でのご講演に、豊かな気持ちと勇気を頂きました。
- 貴重なお話を本当にありがとうございました。私は若者の就職支援の仕事をしていますが、村木先生の「何かを抱えている人に対しての支援が必要」とのお話を聞いてその通りという思いを深くいたしました。精進していきたいと思います。
- 若い女性に手を差し伸べる若草プロジェクトの活動は、今重要なことのひとつだと思います。公的福祉は JK ビジネスのスカウトのお兄さんに負けているという指摘が印象的でした。
- グラフの表示でテーマに沿って辿りやすかった。首都圏ではタワーマンションが林立し高額なため女性も働かざるを得ない今の状態ではその働き方により急激な変化が起こっているのでは思っています。そのことにも触れてほしかったです。
- たいへん尊敬する村木厚子先生のお話しを聞く機会がもてて大変嬉しかったです。難しい内容ですが大変わかりやすくお話し頂き理解できました。世界における日本の女性活躍、若い女性支援わかさプロジェクトの現状などを知ることが出来き、自分自身の日常では知り得ないことばかり。このような良き機会に参加させて頂きありがとうございました。
- 村木先生の話は初めて耳にすることが多く新鮮でした。
- 官僚のご経験と、目の前の社会課題への実践と、幅広い視点からお話を聞かせていただき、今後の考え方の参考にさせていただきます。全ての人が「どうやったらできるか」の思いを持って、行動したいですね。。。本気で。
- 既に現場社会から引退している身ではありますが、大変勉強になりました。女性が上に立つには、障害があり過ぎる世を生きて来ましたが、自分の中の意識もその中から一歩も出ていなかったことを強く感じさせられました。まだまだ、地方では意識改革の遅れを感じますが、それも声を上げていくことが大事というこ

とですね。

これからは、若い人たちの応援に回りたいと思います。大変参考になりました。

ありがとうございました。”

- ・幅広いお話を拝聴することができ、よかったです。
・自分ができることを考えることは難しいですが、自分ができることを考え、実行することが大切であるように思いました。
・教員として、若い女性に関わっていることに、責任を改めて感じました。”
- とてもタメになりました。
村木さんの人柄の良さが伝わってきました。”
- 素晴らしい機会をいただき、心から感謝しております。
できない言い訳、スピードの大切さ、声を出す勇気…すべて心に突き刺さりました。
まず、日々の生活で、自分自身をトレーニングしなければと思います。”
- 転職して行政に携わることになり、もともと学生時代から男女共同参画や LGBTQ、SDGS に興味があり参加しました。まずは姪に若草プロジェクトの相談窓口を紹介しようと思いました。講座には私のような部外者にも門戸を広げてくださって感謝の気持ちしかありません。再び興味のあるフィールドで仕事ができるよう、知識を絶やさず取り組みたいとおもいます。
- 村木さんの話は、口調は柔らかくてでも、とてもシャープに本質を突いたことを根拠をしっかりとって(マクロなデータとしても、ミクロな具体的な実態や人の言葉も)伝えてくださって、とても学びになりました。あたたかく勇気をもたらえる時間でした。
- いま、自殺対策(兼務)を担当しています。健康課題から結び付けた自殺予防の啓発やゲートキーパー養成講座の開催、相談窓口の開設をしています。
周知は続けていますが、全くと言っていいほど、中高大生からの相談はありません。公的機関の敷居の高さ、JK ビジネスのスカウトマンの柔軟さを痛感しました。それぞれの得意なフィールド、最前線で周知・啓発をすることが良いのではないかと思います。しかしながら、国・府からは自治体を実施する SNS 相談窓口事業に補助金が交付されます。人手もノウハウもないので難しいなぁと見送っています。
- 村木先生のお話を伺いたいと思っており、希望が叶いました。多くの示唆に富むお話をありがとうございました。女性が管理職を務める意義や責任ある役割を担うことを時々このように確認しなければ、内なるハードルもあり、前進しにくいところがある気がします。本日はご質問なされた方々のお声も聴くことができ、勇気が出ました。若草プロジェクトの資料もじっくり拝見して、大学で取り組めることについても考えたいと思います。
- 貴重なお話ありがとうございました。
私は今高校2年生です。男女の格差、ジェンダー問題において、やはり日本は世界と比べ遅れをとっていると感じることができました。自分には関係ない少しでもそう思っている人が私たち学生も含め、多くいるのが現状だと思います。でもやはりそれではダメで、「誰一人残さない」そんな日本にするには、やはり個人個人が真正面から向き合うことだと思いました。

私はまだまだ知らないことが多く、未熟です。でも、私のようにこの現状を知り、何かできることがあるのではないかと考えている人が手を取り合っていくことが必ず良い方向へつながるのだと感じました。もっと若い人たちに、自分の置かれている立場、自分にしかできないことを見つめるきっかけになればいいと改めて思いました。

- 現代日本の女性の社会的地位や状況について、コロナウイルスの影響も踏まえながら、データをもとに詳細に解説して下さったのでわかりやすかったです。「女性の社会進出」は、もはや当たり前といった風潮がありますが、やはり諸外国と比較すると、また実際のデータを参照にすると、まだまだだと改めて思いました。「男女平等」の意義と必要性について、もっと多くの人（男性も含めた）が認識することが大事だと思いました。
- 日本社会において女性の活躍が世界の国の中でも取り分け低いのは、男性側の意識がなかなか変わらないことが大きな原因ではあるが、活躍できている国の実情を女性自身が知る機会を持つ事そして日本古来の女性観に縛られていないか自問することも必要ではないか？
- 自分の中にある思い込みを言語化していただいたような感覚になり、まだまだ勉強不足であると感じました。4月から地方公務員として働くので、困りことを抱えた方々の支援に、今日学んだ視点を活かしたいと思います。また、ご紹介いただいた書籍も読んでみたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。”
- 今まで私は、コロナ禍で女性や子どもが抱える問題がより深刻になったということは分かっていたのですが、女子大学生の自分にできることなどほとんど無いとっていました。しかし今回のお話を聞いて、オーストラリアの大学生が考えた「恵の箱」のように、自分にもできることが必ずあり、それを探して行動に移すことが大切だと気づきました。学生だからなのか女性だからなのか分かりませんが、何かを思いついても人に提案する勇気が持てないことが多いので、私も村木先生たちのように、まずは自ら行動できることを目指そうと思いました。「男女平等ができていない」と、口だけで文句を言う人だけに限りたくない、だから自分が社会のために男女平等に貢献できる人になろうと思いました。素晴らしいご講演、本当にありがとうございました。”
- 勉強になりました。主に女性の側からの取り組みに対しての助言だったと思いますが、奈良女子大学においては男性側に問題がある場合も多いと思います。その解決への取り組みもよろしくをお願いします。
- 色々な事例やデータを分かりやすく紹介していただき、参考になりました。
- 若草プロジェクトの活動についてもう少し聞きたかったです。
- これまで感じていた事や知っている事にプラスして、新たな気づきを得る事ができました。ありがとうございました。
- 地方自治体の出先機関で就労支援相談員(キャリア相談)の仕事をしております。生きづらさを抱えた女性たち(少女たち)のよき伴走者であれるよう、頑張りたいと思います。
- 村木先生のお話しが聞けて、女性活躍推進に向けての課題や女性ばかりでセミナー等や会議をしているのではなく、やはり男性も入れてするのがいいという事を私自身は必要だと思って

いたので、その考えが聞けて凄く勉強になったのと、そう変わっていけばいいなと未来を明るく思えました。男性の育児への参加が伸びれば女性の活躍度合いは変わってくると思っているので、早い時期（例えば中学校や高校）の授業の中で働く事の話や、女性だから家事や育児をしないとイケないという、アンコンシャスバイアスを無くす教育を実施すべきだと思っています。貴重な講演を本当にありがとうございました。

- とても勉強になりました。中でも、若草プロジェクトの「気軽に立ち寄れる町の保健室」のお話、なるほどと思います。SOSが出せない人たちが、いなくなる「おたがいさま」が当たり前になる地域に向けて、傾聴の大切さも感じました。
- いろいろと考えるところがありました。時間はかかるかもしれませんが、誰もが生きやすい組織作りができると良いなあ、と思いました。まだ自分にもできることがあるように思われました。
- 内容が濃く、質問をされた方々のご意見からも学びが深まった
- 鎖のお話しを印象深くお聞きしました。綺麗事だとしても、そこを目指し続けなければ現状は変わらないと思いますので、努力し続けたいと思います。
- 女性活躍という言葉だけが先行していますが、なかなか進んでいないのが現状だと思います。現状とこれからの状況について詳しくお話をいただけてとてもよかったです。SDGsのほっとかない社会が発展するという言葉に感銘を受けました。管理職は女の人がやりたがらないというのも男社会が邪魔をしているものも多々あります。それを女性のせいにし、家事や育児は女性の仕事という観念も根深いものがあります。道は険しいかもしれませんが、研修は男女二人で出す。複数の女性を昇進させるなどすぐにも取り組めそうなことは各企業が率先していてもらいたいと改めて思いました。
- 女性の立場がよくなるように、男性はもちろん子供たちへの教育をするなど意識の向上が必要だと分かりました。たくさんの資料と分かりやすいご説明、ありがとうございました。
- 社会を良くしていく為に、人は何をすべきか！また、女性はしたら良いか？色んな観点からお話を聞いて、知識や考えが深まりました。
- コロナ禍でも、色んなことを吸収して成長する機会を貰えて感謝します。”
- とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
- 自分自身が女性相談などを行う立場にあり、若草プロジェクトの紹介にあった、若い支援者の声が心に刺さりました。女性に特化した支援や制度に関しては、逆差別ではないかと言われることもあります。しかし、ケア的役割など女性らしさを求められる中で成長し、葛藤を抱えた女性を見ると、ジェンダー平等を進める必要性を感じます。女性の活躍が「社会のため」であり、企業活動にも利益を与えるというお話に励まされました。

成果と見通し

今年度は「コロナ禍における女性と子どもの困難と支援」というテーマで2回の公開講座を開催した。コロナ感染症の拡大も2年を経過し、まだ収束に至っていない。コロナ禍において不安の広

がる社会情勢において、私たちは生きづらさを感じる事がますます多くなっている。この影響を大きく受けているのは女性と子どもである。コロナ禍における女性と子どもの困難を知り、どのようにすれば彼らを支援できるかについて2回の公開講座から考えた。第1回目の講座では、日下紀子氏が「ウィズコロナの時代を生きるうえで大切なこと～コロナ禍の子どもと女性の支援～」というテーマで語られた。コロナ禍によって大きく生活様式が変化し、母・妻・社会人といった多重の役割を求められる女性が孤独や不安、罪悪感を募らせ、それによって子どもたちに過剰な努力や我慢を強いるようになっている。そして、先行きが見えない不安と上手く付き合いながら、ウィズコロナの時代を生きるために大切なこととして「ネガティブ・ケイパビリティ」という概念を紹介された。第2回目の公開講座では、村木厚子氏が、「改めて女性活躍を考える～若草プロジェクトの活動から見えるもの～」というテーマで、自らの公務員としての経験から、これまでの女性活躍に対する国の政策の現状と問題点について分かりやすく説明された。また現在取り組んでおられる「若草プロジェクト」の活動から、いろんな立場で問題を抱える立場の弱い女性達に対して「誰一人取り残さない」という思いから、必要なのは「待ち」の姿勢ではなく、「寄り添う」姿勢であることを熱く語られた。

オンラインでの開催であったためか、それぞれの公開講座で、広く全国から100名を超える参加者あり、活発な質疑応答がなされた。2回の公開講座から、先の見えないコロナ禍にあって抑圧されている女性や子どもの困難と支援について、講座に参加した者が共に「知り」、そして「学ぶ」ことのできるよい機会となったと考えられる。さらに、講演の内容から、問題点を自分たちの問題としても捉えて、周囲に「伝える」ことで、大きな思いの環が次々と広がっていくことを期待したい。今後もこのような公開講座を企画、開催したいと考える。